

平成19年度研究企画官会議

総 評

コ メ ン ト

- ・全体的にテーマは相当整理されてきている。
- ・総体的に研究の進行速度が遅くなっているような気がする。
- ・環境省の機関として研究を進める必要性がある。
- ・全体的に研究項目の数が少なくなり、ひとつの研究にかける時間が多くなり研究結果が出やすくなった。

問 題 点

- ・グループ全体が実質的に機能化することを切望する。
- ・行政的な政策課題に機能的に対応することが必要。
- ・特定の研究者に加重な負担がかかることに対してそう報いるか。(バーンアウトが心配)
- ・研究者の専門性を考慮した焦点の絞りが必要。
- ・毎年ほんの少しずつしか研究を実施していない研究課題が比較的多い。また、研究はそれなりに実施されていても、期待したデータが得られていない研究課題も少なくない。このような研究を複数年にわたって継続するのは、経費と時間の無駄であり、大きな問題である。大学の研究者が同様のことをしたら、大学院生はデータがないため卒業できず、さらに、研究費も入らなくなるので、研究室を存続させることができなくなる。
- ・国立水俣病総合研究センターは環境省の機関であり、研究の成果は常に「環境省の研究」として受け止められる。また、研究費が税金からまかなわれている以上、実施した研究の成果を公表し、国民へと還元することも当然の義務であり、これらのことを認識して職務にあたるべきである。そういった観点でみると、研究の進み具合の程度や、論文の発表数などで、研究者毎に大きな開きがあり、また、一人で同時に行っている研究の本数が多すぎる。また、環境行政、水俣病対策と密接に関連する研究については、本省の政策及び政策の基礎資料となっている研究成果等の情報を十分把握しておく必要があるが、不足している面があるのも事実である。一方で、環境省で実施している関連する研究との連携と棲み分けも求められている。
- ・全体として、前年に比較してかなりまとまりがあるものになっているが、依然として十分な相互のコミュニケーションがとれているとは思われない。
- ・今回は業務と研究に分けて課題の設定がなされている。このことはセンター職員、とくに臨床部への負担の軽減と評価については重要である。しかし業務の中からも臨床研究として、所内での十分な検討ののち論文化できるものもあるのではないか。
- ・個々の研究テーマについて、もっと明確な見通し、仮説が欲しい。それでないコスト意識も希薄になるように思われる。
- ・研究目的の明確でないもの、対象者数が少なく統計処理ができないもの、研究期間が少なく、一年に1-2ヶ月分のデータしか出ていないもの、専門外の研究を行っているもの、長期間研究を行っているのに論文などを発表できない研究課題がある。

提 言

- ・研究者の業績評価システムを作ること。（予算等に反映させる）
- ・環境省研究班との共同研究をもっと活発化すること。
- ・各研究者が複数の研究課題に取り組むのは止めて、一つの研究課題に出来るだけ専念できるようなシステムにした方が良い。また、年間発表論文数に応じて次年度の研究費を決めるなど、研究者を活性化する方策を立てることも必要である。
- ・研究成果の論文化と国民への説明があってはじめて研究が完了するものであるという前提で、これまでの研究成果を踏まえた研究費の配分が必要。行政と密接に関連する業務等については、環境省、特に特殊疾病対策室等と密接な連携を図る必要がある。
- ・研究の発展のためには、外部との共同研究を一層推進して欲しい。そのためには研究費の分配なども考慮する必要がある。
- ・大項目としての研究テーマの設定に際して、もっと明確な相互間の関連についてのシエーマが欲しい。その中で個々の研究がどういう位置にあるのか、また最終的に大きな研究のゴールをどこに求めるかが明らかになると思われる。
- ・国立の研究所であるので、常に国際的な視野を持つ必要がある。そのためには最新の研究のレビューなどを通して、研究センターが我が国の水銀研究をどのように方向付けようとしているかを示せるよう努力して欲しい。
- ・水俣病患者のフォローアップは、非常に困難ではあるが研究センターにとっては非常に重要な使命であり、粘り強く継続して欲しい。
- ・外部評価を一本化し、事前、中間、事後評価をおこなう評価委員会にする。
- ・評価委員の数をふやし、今以上にそれぞれの分野を評価できるようにする。
- ・目的や方法論が明確でないものは、事前評価で採用しない。
- ・5年計画の研究も3年間の中間評価で、結果が望めないものについては、中止する。

平成19年度国立水俣病総合研究センター

研究企画官会議メンバー

- | | | |
|-------|-----------------|---------|
| 二塚 信 | 九州看護福祉大学 | 学長 |
| 永沼 章 | 東北大学大学院薬学研究科 | 教授 |
| 有村 公良 | 鹿児島大学医学部 | 准教授 |
| 小林 一司 | 環境省環境保健部特殊疾病対策課 | 主査 |
| 中村 邦彦 | 国立水俣病総合研究センター | 主任研究企画官 |